

日本クリスチャン・アシュラム連盟

イエスは主なり



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '93 9.1 87



一八七二年にドイツで生まれ、ルーテル教会の指導者の一人として活躍し、晩年はキリスト教的瞑想生活の確立に努力し、一九三八年この世を去ったフリードリッヒ・リッテルマイヤー博士は、ヨハネによる福音書のみことばによる瞑想を提唱した。聖書のみことばに聴くとき、そこから、私たちは光を見出し、慰めを与えられ、喜びに包まれ、幻を見ることが出来る。

リッテルマイヤーは、聖書のみことばについて瞑想しようとする時、或る書の一章とか二章とかという可成り長い部分を取り上げる必要はない。十数節ぐらいでも良いし、あるいは数節でも良いし、また一節だけでもよい。人々から妨げられず、家族からも離れ、心の集中できる場所（野外でも部屋の中でも、或いは礼拝堂でも選べるところはどこでも）に入り、みことばに集中し、祈り、黙読し、精読し、祈りに響く神のみ声、キリストのみ声、聖霊の語りかけに聴く時、キリストによって生かされている者としての深い感動に包まれる、という様なことを語っている。

多くの人はよく「忙しい、忙しい」

「わたしだ。
恐れることはない」

辻中昭一

と云う。どうして忙しいのか、と一日の生活を分刻みに分析して行くと、思いがけないところに、とても多くの無駄な時間が費やされていることがある。したがって「忙しい」という人は自分の生活設計を作ってみられるとよいのではないだろうか。

そして時間、場所の調整ができたなら一日の中のできるだけ早い時間、たとえば朝の五時とか六時とかの時間に聖書を開き、一人で神の前に開心の時をもつ。そして、聖書のみことばに先づ心を向けて瞑想、あるいは静聴の時を持つようにする。アパ・ルーム、信徒の友、ローズンゲンその他日々の私たちの霊想を導いてくれる本や雑誌が沢山ある。それらによって三位一体の神との交わりをさせていただくことによつて、祝福の中に一日は始まって行くことであらう。

毎朝、私は、もう一人の大伝道者の言葉を思い浮かべる。それはピリー・グラハム博士の言葉である。「伝道者としての私のパウロの根源は詩篇にありませう。旧約聖書の律法書、預言書、新約聖書の福音書、書簡などと共に、私は毎日欠かさず詩篇を読んでいます。」

私はピリー・グラハム博士の前記の言葉に接して以来、もう二十年以上もずーっと詩篇を読み、そして旧、新約の各書を読み、示されるままに、あのこと、この事などを手帖やノート、その他手許にある紙片などに書きとめて置いている。したがって私にとっては、朝の一刻は誰にも妨げられない、喜びと感謝の満ちあふれてくる時である。どんな時間帯に？と問いかげられる方がいらつしやるかも知れない。その時間を書くこと、読者は「とても信じられない」と仰られることだらう。朝の時間はとても生産的である。特に霊的な意味において……。

アシュラムの恵みは、自分で土を耕し、種を蒔き、水を注ぐ人に、神が祝福として、数々の実りを与えてくださる、という事実にある。

ヨハネによる福音書第六章二十節に「イエスは言われた。『わたしだ。恐れることはない。』とある。

創造者なる神、救い主イエス・キリスト、聖霊なる神よりのメッセージをいただく幸いと、これを人々にお分かちする幸いに生きていこう。

(日本基督教団 扇町教会主任牧師)



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

キリストはだれにも必要である

「この記事は一九二九年一月にテネシ州メンフィスで開催された国際宣教会での講演の未出版の原稿である。リユー・デビス兄弟が発見し、トランスフォーメーション誌編集長に託されたものである。丁度この一年前に有名なエルサレム国際宣教会が開かれたばかりであった。紙面の都合上、数回に分けて掲載する。」

エルサレム国際宣教会が開かれた時、ある一つの質問が出された。わたしは宣教会の事業全体が確かな歩みをするためには、まずこの問いに答えなければならぬと思う。多くの質疑がエルサレムで真剣に討議された。

イエスが十字架につけられた時のことを覚えているだろう。彼の唇が震えながら問うた言葉は「わが神、どうして?」である。人々の心を悩ますすべての問いが、「わが神、どうして?」というあの問いに取りあげられているように見える。それで地の果てからエ

サレムに集まって来た人々の質問の多くが、あのすさまじい模索の時間の中に集約されていたように思われる。そしてわれわれは学問的疑問を扱っているのではないことを知った。何故ならプログラム全体がこれに対する答えを巡って揺れていたからであった。将来のすべてが我々の答えいかんにかかっていたのである。「我々は最後の最後になっても答えを出せないのではないか。もしそうであるなら、宣教の業は衰え、しおれ、死んでしまうのではないか。」あの時激しく交された質疑の一、二を述べてみたい。第一の問いは「我々は宗教混合へと進んでいるのではないか」であった。ある人達は宗教混合への傾向を感じていた。「キリスト教も多くの真理のパッチワークの一部に過ぎないのではないだろうか」と。

第二の目立った問いは、「福音は単に何かをもっと多く与えるものなのか、あるいは別の何かなのか。それは他の諸真理の延長なのか、或いはその相違が非常に大きくて、結局質的に別のものであるのか」であった。

私が論じたいのは、討論に加わっていた或る優秀なインド人からの発言である。彼は問うた。「若しマハトマ・ガンジーがクリスチャンになったとすれば何か違いが起こるだろうか」と。彼は付け加えていった。「私はこの大会がこの問題に答えて欲しい。そしてあな

た方のこれに対する回答がなければ、これ以上会議を続けるわけにはいかない」と。この質問が提出された時、我々は直ちにこれが問題の核心であると知った。ガンジーもキリストを必要とするのか。若し必要でないと云うなら、そこには人間にとってイエスが無関係であり、不要である生き方の到達点があるに違いない。若しキリストが全ての人に必要でないならば、彼はだれにも必要ではないのである。何故なら、普遍的でないものは真理ではないからである。キリストは全ての人に必要であるか、あるいはだれにとつても必要ではないかのどちらかである。

我々はすぐこの問題の重大さに気がつき、「若しマハトマ・ガンジーがクリスチャンになったとしたら、彼に何らかの変化があつただろうか」と考えた。だが私が言ったように、「あなたが問題に直面した時には、それを最も厳しい形に於て、最も困難な局面で取り組んでみなさい。そこで答えを出しなさい。そうすればあなたは徹底的に答えたことになる」のである。

キリストは身分の低い人々のため、見捨てられた者らのために何をしてくるかには周知のとおりである。しかし、ここにガンジーがいる。彼に就いて知る人々は、彼を世界で最も偉大な人物の一人として認めている。ガンジーは自分はクリスチャンでないと云い、そ

して救いの道を別の仕方でも求めていると言っている。これをどう受けとめるべきだろうか。ところでガンジーは我々に二つの偉大な貢献をしていると思う。第一は物にはこれこんでいる文明社会に生きている我々は、全く物欲を捨てて生きる事ができる、この人を見て驚くということである。彼は我々に豊かさ、富の多さの中で得られるのか、或いは欲望の少なさの中で得られるのかを教えにくれたのである。

第二に、ガンジーは我々の福音の基礎をなしている武器―即ち善をもって悪を、愛をもって敵意を、世を十字架をもって克服すること―に注目するようになり、呼びかけていた。克服への唯一の道は、(ガンジーのように)苦難をいかに忍ぶかを知っている魂の不屈さによって征服することである。

アシュラム生活の最良の友
アパ・ルーム
海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)
国際的、超教派的、霊的な読物
価250円 72円、年1,932円

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11
振替口座 (東京) 1-193834 アパ・ルーム
電話 0465-48-2010

日本語版は創刊以来42年続行中

東京都目黒区中央町1-21-10
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座東京014558番

連盟全国理事会報告

一九九三年六月七日午後二時より、山崎製パン箱根山荘に於て。開会礼拝は海老澤理事長の司会で、エペソ四・11、24朗読、開会祈禱、勧めがあり、次いで議事に入った。「反省の時」大石総務の司会で、(a)連盟役員会報告、※後記①。(b)92年度通常及び出版会計報告。(c)各地の活動報告。

「展望の時」渚江常務の司会で、(a)93年度計画。(b)連盟会報の編集と活用。(c)総務局の強化、※後記②。(d)93年度通常会計予算案。

第二日午前、「福音の時」に芦名理事により、「助言者の霊性強化」に就いて勧めあり、正午ファミリアの時を以て終了した。

※①役員会事業報告の内容。①総務会は年六回開催、②会報・年六回発行、③地区強化の目標。名古屋、東北、四国。④国際連絡。米国アシュラム連盟と出版物、集案案内の交換。95年日本アシュラム40年記念大会にJ・マシューズ師を招く。第九回国際アシュラム(94年7/6スエーデン)には団長を土山副理事長に委嘱、大石理事が連絡準備に当る。

※②総務会の強化。総務の仕事は次の通りに改める。

書記・渚江。会計・(収入)飯島庸

(支出)大石(会計監査)二宮昭(碑文谷教会役員)、会報・白川。

▽規則一部改正

第四条2「機関紙」を「会報」に、第六条 役員名「総務」の次に「会報」を新たに加える。(報告者・渚江)

連盟賛助金・献金報告(七月二十五日)

海老澤宣道	'93	二〇、〇〇〇円
河野 修	'93	二〇、〇〇〇円
白川 鄭二	'93	一〇、〇〇〇円
古河 治	"	一〇、〇〇〇円
向山 自助	"	一〇、〇〇〇円
飯島 延浩	"	一〇、〇〇〇円
山本 繁夫	"	三〇、〇〇〇円
土山 牧羔	"	二〇、〇〇〇円
木部 安来	"	七、〇〇〇円
河合 光治	"	五、〇〇〇円
三井賢太郎	"	一〇、〇〇〇円
海老澤須磨	献	一〇、〇〇〇円
後宮 俊夫	"	一〇、〇〇〇円
小計		一七二、〇〇〇円
%席上献金		九四、〇〇〇円
合計		一六六、〇〇〇円

(収入会計・飯島庸江)

◎第二回クリスチャン・アシュラム・セミナーの報告

93年9月午後二時～9時正午。山崎製パン箱根山荘にて。全国理事会に引き続き開催。全国より五地区の委員長を始め、女性六名をまじえて三十四名出席。



▲第2回セミナー参加の皆さん。

「開心の時」は海老澤連盟理事長の講演「スタンレーの信仰」により守られ、「福音の時」には「インド途上のキリスト」の読後感が各地区委員長らにより六時間に亘って発表された。読後感是要をえて、甚だ有益であった。スタンレーはインド伝道の重大な困難の原因が、欧米文化の衣をまとった西欧教会がその教理と伝統を異国インドにもち込んだことにあると気付き、インド人の受け入れてくれるキリストは、インドの路上を裸足で歩く教師(グル)でなければならぬと悟り、イエスこそ主であると主張している。

個人消息

○宇都宮美江姉(松山済美会館理事長)松山市祝谷六一二四八・松山エデンの園三〇八号に居住。松山番町教会に出席されている。八十二才。
○谷本チサ姉・広島市西区鈴ヶ峰町三二一〇に次女のご家族と同居。お孫さんが十名になられた。
○植村文子姉・お元気ながら足がご不自由のよし。信愛社の礼拝に出ている。

編集長 海老澤 宣道
発行人 白川 千嗣郎
定価 一部大60円 千嗣郎 62円

D.P.・タイトス

御国を来らせ給え

訳者 植村 俊雄

(価300円 72円)

インド途上のキリスト

1986年10月改定版

著者 E・S・ジョーンズ

新訳者 渚江 淳一

(特価1,500円と送料250円)

アシュラムの原則と実際

—第3版—

海老沢 宣道 著

新書版 52頁 価300円 72円

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟

申込先 東京都目黒区中央町1-21-10 大石 嗣郎

振替口座 (東京) 0-4558番

今秋開催のアシユラム

●第二十八回九州アシユラム

〔日時〕 9月13日(月)～14日(火)
 〔会場〕 北九州市小倉・西南女学院研
 修所

〔助言者〕 山田忠師(日基教団・沖繩)
 岡 勝師(バプ連盟・門司港)
 —世話人・山本繁夫—

●第三十一回関東アシユラム

〔日時〕 9月14日(火) 14時より16日
 (木)正午まで。

〔会場〕 奥多摩福音の家
 〔主題〕 「イエスは主である」
 〔助言者〕 島 隆二師。
 〔参加費〕 一五、〇〇〇円
 〔申込先〕 〒112 東京都文京区白山・小
 石川白山教会・関東アシユラム
 委員会

●第二十七回関西アシユラム

〔日時〕 10月10日(日)15時半より11日
 (月)14時半まで。

〔会場〕 関西学院千刈キャンプ場
 〔主題〕 「キリストの体である教会の
 ために」コロサイ一・二十四
 〔助言者〕 土山牧善師・川谷威郎師・
 後宮俊夫師。
 〔定員・費用〕 70名・八千円
 〔申込先〕 〒662 西宮市川添町九一三二
 日本キリスト教団香櫨園教会

●東北アシユラム

〔日時〕 11月23日(火・休)～24日(水)
 〔会場〕 宮城県グリーンピア岩沼
 〔主題〕 「実が残るように」ヨハネ15・
 1～17

〔定員〕 三十名
 〔申込先〕 福島教会・アシユラム係
 電話〇二四五(三四)三七八七

アシユラムとは何か? Q & A

(3)み言葉への静聴と立証

島 隆三

Q アシユラムにおける「静聴」と「立証」についてお聞かせ下さい。

A 静聴は、アシユラムの真髄そのものと言ひ得るでしょう。一体、アシユラムとは日常生活から離れることを意味しますが、私たちのアシユラムの目的の第一は、日常生活から離れて、ひたすら主のみ声に聴き入ることです。
 Q み声に聴き入るとは、何か神秘的ですね。

A 神秘的というより、信仰の奥義を追求するのです。み声に聴き入るといっても、ただ瞑想するのではなく、あくまでも聖書のみ言葉に聴くのです。み言葉を通して、今、私に語って下さる主のみ声に聴従するのです。「僕は聞きまます。主よ、お話しください」という

のが、アシユラムの根本精神です。

Q み言葉に聴くのですか。では聖書のどこを読んでもいいのですか。

A 普通は、そのアシユラムで決められたところを一緒に静聴します。同じみ言葉に聴きながら、その人のおかれた状況や課題が違つたために、違った導きを受けることがよくあります。例えば、ローマ書十三章十四節から、ある人は「主イエス・キリストを着なさい」により、霊的覚醒を与えられ、ある人は、次の「肉の欲を満たすことに心を向けてはならない」を天来のみ声と受けとめて、断固生活を改めました。

Q それは結構です。しかし、各自が勝手に聖書を読むのは危険ではないでしょうか。牧師の説き明かしや、注解書で学ぶことが大事ではないですか。

A 勿論、それも大事です。それらによつて、聖書の勝手な読み方が正されていきます。しかし、私たちが聖書と直接相対し、そこから主のみ声を聴く訓練が大切です。それにより、毎日の祈りの時(デポジション)が充実して来るでしょう。アシユラムでは、各自が聴いたみ言葉をお互いに分ち合うことにより、聖書の豊かさを知ることが出来ます。自分では全く気付かなかつた点を教えられ、み言葉に対し新しく目を開かれることとなります。

Q それは「立証」と関係ありますか。A あります。アシユラムでの立証は、

以前に受けた恵みを証するより、そのアシユラムでどのように主に導かれたか、どんなみ言葉を与えられたか、どういう決断をするに至つたか等を共に分かち合うのです。それでこそ「キリストへの明け渡し」から始まつて、「み言葉への静聴と立証」、聖霊の啓導と「充満」……へと続くアシユラムの一連の流れが生きてくることとなります。

終りに、私の一つの経験をお話させて頂きたいと思ひます。私はかつて十年間ほど地区の青年会にかかわりました。その頃は、大学紛争、教団紛争のあおりを受けて、多くの青年たちが教会から去つた後で、全体に青年会に活気がなく、地区の青年会活動も沈滞していました。スポーツ大会や読書会など、いろいろ呼びかけてみましたが、なかなかうまくいきませんでした。その頃、誰かの発案で「皆で一緒に聖書を読み、各自が感じたことを語り合つてみよう」という、いわばアシユラムの「静聴と分かち合い」を実践してみたら、会が生きて生きと充実してきて、出席者も定着し、そのやり方が一番安定して長続きしました。その出席者の中から、何人かの青年たちが献身して神学校に進み、今は各地でよい働きをしています。忘れられない思い出のひとつです。

(西川口教会牧師)